



A6.

- ・吐きにくい体位
仰臥位で60°程度頭を挙上させた体位、またはだっこの姿勢⁷⁾。

- ・誤嚥しにくい体位（食事中）⁸⁾
 - ① 床面に対する体幹の角度
食塊が重力により自然に咽頭に落ちたり誤嚥の可能性がある仰臥位ではなく、ある程度の角度（45°位）がある方がよいです。
 - ② 首と体幹の角度
首が後ろに反り返ると、咀嚼や嚥下の動きが阻害され、誤嚥しやすくなるので、体幹から首にかけてのラインが直線になるか、少し前屈した角度がよいです（目安として、顎の下に子ども自身のこぶしが入る程度）。

- ・誤嚥しにくい体位（ベッド上）
仰臥位では痰や唾液が気道に溜まりやすいため、腹臥位（うつ伏せ姿勢）や側臥位がよいとされています⁹⁾。

- ・SpO₂（経皮的動脈血酸素飽和度）の低下は肺に取り込まれる酸素量が減少していることを示します。人工呼吸器を装着している場合は呼吸器回路の外れや、酸素を供給するチューブが外れていないか確認しましょう。気管内や気管カニューレ内に喀痰が貯留していることで酸素の取り込みが悪くなっていることも考えられるので、体位変換や気管内吸引をして、回復するか確認しましょう。

- ・胃瘻ボタンは胃の前壁から胃内に挿入されているため、先端はいわば胃の内腔に浮いた状態にあります。そのため、体位によっては胃内容物が胃底部（胃の頭背側）に溜まって胃瘻から吸引できないことがあります。経鼻胃管の先端は胃底部にあるため、右側臥位などでは胃内容物が胃底部にないことがあり、胃管から吸引しても胃内容物を吸引できない場合があります。

参考文献

- 7) 慶應義塾大学病院 医療・健康情報サイト：胃食道逆流症（GERD）（小児外科），
<http://kompas.hosp.keio.ac.jp/contents/000115.html>（2021年2月3日アクセス）
- 8) 岸和田支援学校自活研究部：重度障がい児の食事指導，
<https://www2.osaka-c.ed.jp/kishiwada-y/a41ad8ad26dffec2306de17dd1ad2750.pdf>（2021年2月4日アクセス）
- 9) 厚生労働省ホームページ：在宅重症心身障害児者支援者育成研修プログラムPart 3 p68
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000099377.html>（2021年2月15日アクセス）